

令和6年度 学校園評価(関係者評価)シート

(様式2)

学校園名

加古川市立平岡東幼稚園

1 教育目標

心豊かに学び合い 育ちあう子どもの育成

2 基本方針

幼稚園の生活の中で自ら心を動かす物事に会い、遊びに取り入れたり、また友達と一緒に工夫したり考え合ったりしながら遊ぶ楽しさを味わい、主体的でたくましく生きる力を育む。

3 指導目標

- ・心も体も健やかで 明るい子
- ・思いやりがあり 心の優しい子
- ・様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子
- ・自分の思いを伝え 素直に表現する子
- ・感じる心 考える力がある子

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
基本的な生活習慣を確立する。	・身近な人に、自ら進んで挨拶をする。 ・早寝早起きをし、朝食を食べる。 ・自分でできることを自分でしようとする。	B	○ユニット連携事業の一つとして、毎学期に一回「おはようデイ」に取り組んでいる。当番の幼児は門に立ち、友達だけでなく、地域の方にも挨拶することで挨拶の大切さや気持ち良さを感じることができた。 ○長期休みには特に生活習慣が乱れやすいことから、早寝早起き朝ご飯表を作り、毎日記入することで意識できるようにしたこと、多くの幼児が生活リズムを整え、登園できている。しかし、就寝時間を守ることや朝ご飯をしっかり食べるためには家庭での意識と協力が不可欠である。今後も、幼児だけでなく、家庭への啓発も行っていきたい。	・基本的生活習慣については、保護者の協力が必要だ。小学校に行くとは生活習慣の乱れは学習に影響する。今後も、保護者と家庭での様子を聞きながら、意識啓発をしてほしい。	B
豊かな体験を通して主体的に活動する。	・伸び伸びと身体を動かして遊ぶ。 ・身近な自然に興味関心をもち、取り入れて遊ぼうとする。 ・自分なりの目標をもって色々な運動遊びに取り組み、達成感や満足感を味わう。	B	○園庭には四季折々の果物が育ち見て食べて五感を使って四季を感じた。また、花やドングリ、落ち葉等、自然物を使って遊ぶことを楽しんだが、幼児の遊びの姿に応じて環境の再構成をしていきたい。 ○地域の方のご厚意で、幼稚園だけでは体験できないことを経験させていただいている。今後、田畑や公園、施設等の地域資源を保育に取り入れることで、より心豊かな体験活動となるようにしていきたい。 ○運動会では、竹馬やバカボコなど少し難しいことに挑戦することで、自分なりに目標をもって取り組む姿が見られた。今後も普段の活動や遊びの中に、意図して運動遊びを取り入れていきながら、幼児の体力向上、運動遊びへの意欲と達成感を味わえるようにしたい。	・こどもの興味はそれぞれ違う。見極めていくことは難しいが、こどもに合わせて何でもやらせてほしい。 ・園周辺の田んぼや公園等、自然に触れて遊べる環境に恵まれている。有効活用してほしい。 ・竹馬の取り組みがよかった。個人差があるなか難しいだろうが、目標をもつための遊びの取り上げ方を今後も工夫してほしい。	A
様々な人とかかわる中で愛情や信頼感、自己肯定感を育む。	・友達や身近な人に親しみ、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・人とかかわる中で、自分に自信をもつようになっていく。 ・友達の思いに気付き受け入れて遊ぼうとし、思いやりの気持ちをもつ。	B	○同年代の友達と一緒に遊んだ経験なく入園を迎える幼児が増えている。園では、クラスタイムで自分の意見を出したり、友達の思いを聞いたりする場を設け、やりとりを通して関わりが生まれるよう遊びを展開することで、友達に親しみをもって過ごしている。 ○薫草履作り、七夕まつり会、和風作り、絵本読み聞かせなどの様々な行事に、学校園支援ボランティアの方をはじめ地域の方が関わってくださっている。核家族化が進む中で、家族以外の人との交流や、遊びや生活の知恵を教えていただくことは、心豊かな人格形成につながっている。今後も周囲の方への愛情と感謝の気持ちをもち、地域の中で育まれる公立幼稚園であることを常に意識していきたい。	・ゆうあい広場（老人クラブとの交流会）では、久しぶりに会っても園児が覚えていてくれてほっこりした。友達同士の関わり合いも見られ、園でのつながり合いが表れていた。 ・いろいろな感情を知るために、これからも勝敗のある遊びやいろいろな人との交流など、様々な経験をさせてほしい。 ・小学校5年生との交流給食は、顔を知っている人がいることは入学後の強みになるので、続けてほしい。	A